

## 21.【人口あたり製造品出荷額】自動車産業が牽引・・・でも1位は小さな島の町

今回は工業（製造業）について見ていきましょう。第二次産業に属し、「ものづくり産業」とも呼ばれる日本の製造業は、生産現場の海外流出等で不安視される部分もありましたが、国内回帰や先端技術を巡る動向などもあり、引き続き国力を牽引し、経済安全保障の観点からも非常に重要なものです。

製造業に関する統計としては、古くから「工業統計調査」が毎年行われてきました。市区町村別の製造業事業所数、従業者数、製造品出荷額等もその中の「地域編」で製造業の業種別に把握できました。しかし、平成24年に「経済センサス活動調査」が始まると、その実施年（5年毎）にはその中で製造業も把握されるようになり、さらに、その中間年の経済状況把握のために令和元年から毎年行われるようになった「経済構造実態調査」の中に令和4年調査から従来の工業統計調査の内容も取り込まれることとなりました。

従って、現在（令和5年12月）利用できる最新データは令和4年の「経済構造実態調査」のものとなり、従来の工業統計調査と同様に「地域編」が利用可能です（全事業所対象）。

さて、ひとくちに製造業と言ってもその内容（業種）は非常に幅広く、いわゆる重厚長大型から軽薄短小型まで多岐にわたり、全般に「ものづくり」とも言い換えられますが、例えば印刷業も製造業に属します。この業種分類は時代とともに見直され改編されてきましたが、令和4年「経済構造実態調査」での基本的な業種分類（産業中分類といいます）は下のとおりです。それぞれどんな製品を「つくる」ものかイメージできますでしょうか。

このような多様な業種を含む製造業ですが、本稿ではそのトータルとしての製造業全体の生産規模を示す「製造品出荷額等」に注目します。地域における工業生産力の比較は、「製造品出荷額等」自体の比較でも良いのですが、人や経済の集積規模が大きいところでは必然的にその値も大きくなるため、人口（夜間人口）で除して「人口あたり製造品出荷額等」として比較することとします。これだけでは業種構成内容が見えませんが、地域を限定してみると、そこに立地する大規模な企業事業所の名などから特性を推し量ることもできます。

なお、「製造品出荷額等」とは、「1年間の当該事業所から出荷した製造品出荷額、加工賃収入額、修理料収入額、製造工程から出たくず及び廃物の出荷額とその他の収入額の合計で、消費税等の内国消費税を含んだ額」とされています。

### 「製造業の業種分類（産業中分類）」 （令和4年「経済構造実態調査」による）

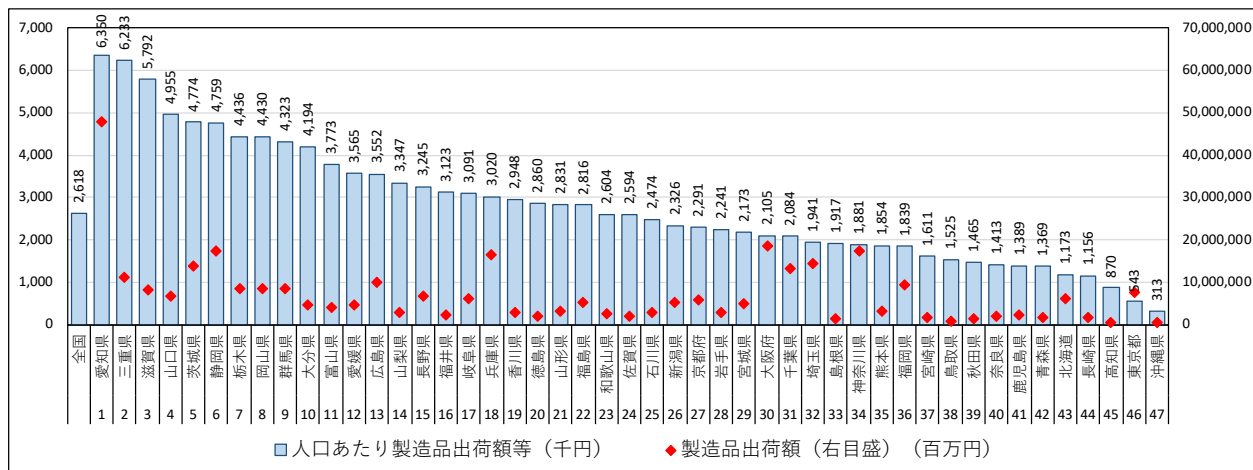
食料品製造業
飲料・たばこ・飼料製造業
繊維工業
木材・木製品製造業（家具を除く）
家具・装備品製造業
パルプ・紙・紙加工品製造業
印刷・同関連業
化学工業
石油製品・石炭製品製造業
プラスチック製品製造業（別掲を除く）
ゴム製品製造業
なめし革・同製品・毛皮製造業
窯業・土石製品製造業
鉄鋼業
非鉄金属製造業
金属製品製造業
はん用機械器具製造業
生産用機械器具製造業
業務用機械器具製造業
電子部品・デバイス・電子回路製造業
電気機械器具製造業
情報通信機械器具製造業
輸送用機械器具製造業
その他の製造業

## ☞愛知県は日本屈指の工業県（茨城・静岡なども実力十分）

「人口あたり製造品出荷額等」を、まず都道府県別に比較してみましょう。ここで、分子となる「製造品出荷額等」は令和4年「経済構造実態調査」（6月1日現在）ですが、分母の人口は令和2年国勢調査の値を使っており、分母と分子で年次が一致していないことをご容赦ください（以下同じ）。

下のグラフは「人口あたり製造品出荷額等」の大きい順に並べたものですが、「製造品出荷額等」そのものの値も◆印で示しています。両者ともにトップは愛知県で、言わずと知れたトヨタをはじめとする自動車産業や、中京工業地帯の中核を占める臨海部の大工場群などから十分に領けるところです。愛知県は日本屈指の工業県と言って過言ではありません。

都道府県別の「人口あたり製造品出荷額等」



資料：令和4年「経済構造実態調査」、令和2年国勢調査

「製造品出荷額等」自体では、2位以下は大阪府、神奈川県、静岡県、兵庫県、埼玉県、茨城県、千葉県の順に続き、長く日本を牽引してきた京浜・阪神工業地帯の貫録を見せつけていますが、「人口あたり製造品出荷額等」の順位はだいぶ様相が異なったものになっています。2位以下の順位は三重県、滋賀県、山口県、茨城県、静岡県、栃木県、岡山県、群馬県と続いています。このうち、茨城県と静岡県は「製造品出荷額等」自体も上位であって、工業県の実力十分というところで、両県内に大規模工場群を持つ日立やスズキといった有力企業の名が浮かびます。三重県、滋賀県、山口県なども一定の工業生産力規模はありますが、分母の人口規模の相対的少なさから、人口あたりで上位になっているということです。

逆に、大阪府、神奈川県、埼玉県、千葉県などは、生産力規模では上位にありながら人口あたりでは下位になるのは分母の人口の多さによるもので、東京都も「製造品出荷額等」自体では中位ですが人口あたりで見ると46位となってしまいます。

いずれにしても、都道府県民の立つ土壌における工業力（ものづくり力）には大きな差があり、各地域の経済基盤、経済構造の多様性につながっており、もちろん製造業は地域内で完結せず世界的経済の中で動いているのですが、このように地域の視点から眺めると興味深い部分もあるわけです。

## ☞上位に自動車産業のまちが居並びが、1位は瀬戸内の直島町

次に、市区町村別の比較です。今回も、政令指定都市は行政区単位としており、また、福島県双葉郡8町村と飯館村は東日本大震災・原子力発電所事故の影響により令和2年人口データにおいて特殊事情にあると判断して対象外とし、比較対象は1,887市区町村です。

右の表に「人口あたり製造品出荷額等」の上位 50 位までの市区町村名を、その値と製造品出荷額等自体の値とともに示していますが、一見して気づくのは、製造品出荷額等自体の規模は大きくなくても分母の人口規模が小さいために、思わぬ町村の名が上位に含まれているということです。

「人口あたり製造品出荷額等」の 1 位となった香川県直島町は、香川県といっても岡山県玉野市に近い直島諸島で構成する人口 3,000 人ほどの小さな町で、近年は観光面でも知られるようになっていますが、町内には大正時代の銅精錬所からの歴史を持つ三菱マテリアルの事業所があります。ここは、近接する豊島で大きな社会問題となった不法投棄の産業廃棄物を資源として再生させるエコタウン事業を行っていることで注目されます。

2位の山口県和木町(人口6,000人ほど)も、三井化学の工場やENEOSの製油所等が立地しており、こうした自治体はそれによる財政力の豊かさから市町村合併を拒み、小さくても独立を維持しているところが多いのも頼もしいことです。

このほか、上位の市区町村名をみると立地している大工場の企業名がすぐ頭に浮かぶところが多いですね。豊田市(9位)のトヨタはもちろんのこと、竜王町(4位)のダイハツ、忍野村(6位)のファナック、苅田町(11位)の日産、湖西市(16位)・牧之原市(20位)のスズキ、亀山市(19位)のシャープなどは誰もが認めるところでしょうが、何といてもトヨタの主要工場が立地する市町村名が上位に多く名を連ねていることが注目されます。豊田市に加え、大衡(おおひら)村(5位)、宮若市(7位)、金ヶ崎町(8位)、いなべ市(10位)、田原市(12位)、大和(たいわ)町(14位)など、いずれもトヨタの工場の存在感が大きいところです。

それにしても、自動車産業おそろべしですね。ここでも自動車産業が日本の製造業、経済全体を牽

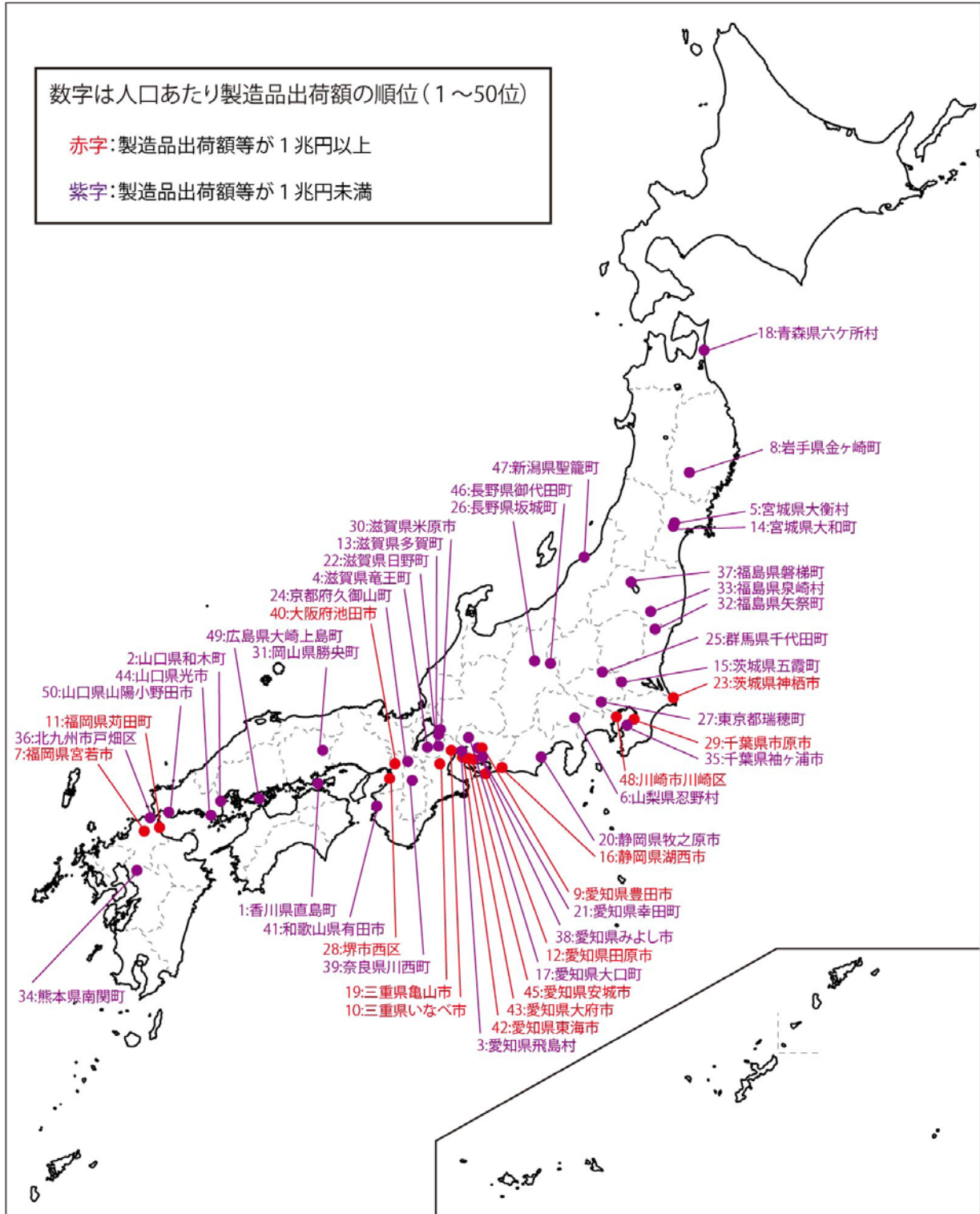
市区町村別の「人口あたり製造品出荷額等」  
(上位 50)

順位	(県)	市区町村名	人口あたり製造品出荷額等(千円)	製造品出荷額等(百万円)
1	香川	直島町	161,075	499,817
2	山口	和木町	85,697	517,098
3	愛知	飛島村	60,379	276,234
4	滋賀	竜王町	58,816	693,378
5	宮城	大衡村	57,601	336,911
6	山梨	忍野村	49,294	455,324
7	福岡	宮若市	44,757	1,177,013
8	岩手	金ヶ崎町	39,889	619,675
9	愛知	豊田市	35,460	14,975,769
10	三重	いなべ市	34,164	1,536,450
11	福岡	苅田町	31,791	1,197,994
12	愛知	田原市	30,173	1,791,083
13	滋賀	多賀町	28,674	208,576
14	宮城	大和町	27,853	801,766
15	茨城	五霞町	27,266	220,664
16	静岡	湖西市	27,137	1,570,841
17	愛知	大口町	22,565	548,443
18	青森	六ヶ所村	21,328	221,106
19	三重	亀山市	21,007	1,046,884
20	静岡	牧之原市	20,875	908,120
21	愛知	幸田町	20,663	877,123
22	滋賀	日野町	18,773	393,564
23	茨城	神栖市	17,995	1,717,726
24	京都	久御山町	17,900	272,969
25	群馬	千代田町	17,845	193,817
26	長野	坂城町	17,787	249,086
27	東京	瑞穂町	16,818	534,222
28	大阪	堺市西区	16,702	2,261,029
29	千葉	市原市	15,769	4,250,060
30	滋賀	米原市	15,665	583,138
31	岡山	勝央町	15,596	169,804
32	福島	矢祭町	15,432	83,211
33	福島	泉崎村	15,359	95,426
34	熊本	南関町	15,308	137,447
35	千葉	袖ヶ浦市	15,219	972,205
36	福岡	北九州市戸畑区	14,872	855,025
37	福島	磐梯町	14,840	49,298
38	愛知	みよし市	14,684	909,685
39	奈良	川西町	14,513	118,526
40	大阪	池田市	14,195	1,490,412
41	和歌山	有田市	14,169	376,029
42	愛知	東海市	14,061	1,599,971
43	愛知	大府市	14,041	1,307,528
44	山口	光市	13,814	687,926
45	愛知	安城市	13,789	2,592,111
46	長野	御代田町	13,720	213,409
47	新潟	聖籠町	13,539	193,046
48	神奈川	川崎市川崎区	13,505	3,146,285
49	広島	大崎上島町	13,395	95,883
50	山口	山陽小野田市	13,378	807,019

引する位置にあることが垣間見えます。このほかの上位市区町村も、大規模な工業団地に有力企業の工場が集中立地しているところが多いようです。

以下に、上位 50 市区町村の位置をマップで示します。

「人口あたり製造品出荷額等」上位の市区町村マップ



資料：令和4年「経済構造実態調査」、令和2年国勢調査

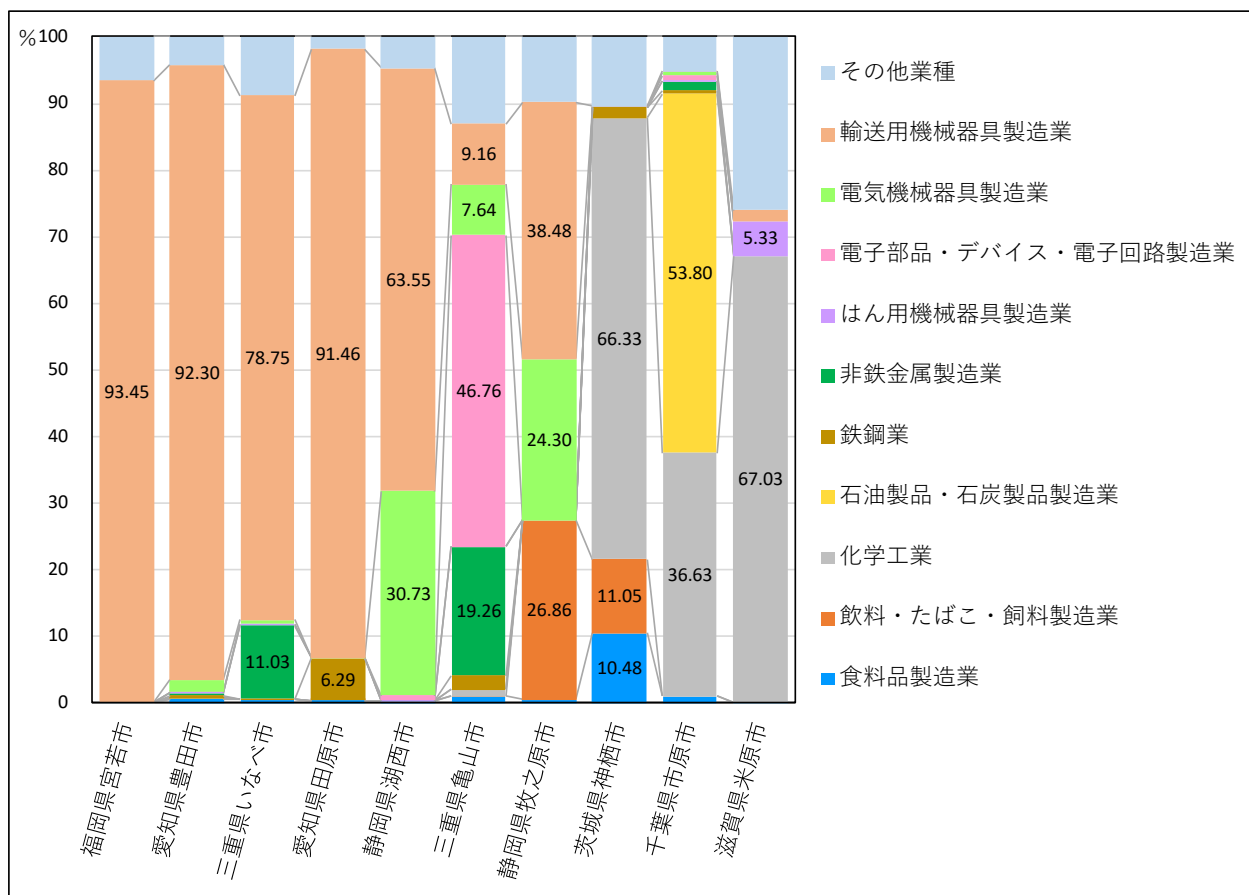
## ☞上位の市は企業城下町的な性格のところも多い

さて、冒頭で、製造業といってもその業種内容は幅広いと述べましたが、上で見た「人口あたり製造品出荷額等」上位のところではどうでしょうか。上位陣のうち、令和4年「経済構造実態調査」の公表値で業種（産業中分類）別の値が得られる「市」について、その構成を見てみましょう。

下の図のように、「人口あたり製造品出荷額等」上位の「市」では、業種内容が幅広いというよりも特定の業種（立地する大企業工場の業種）に大きく偏った構成のところが多いことがわかります。宮若市、豊田市、いなべ市、田原市、湖西市等では「輸送用機械器具製造業」つまり自動車製造業が圧倒的な割合を占め、亀山市の「電子部品・デバイス・電子回路製造業」、神栖市や米原市の「化学工業」、市原市の「石油製品・石炭製品製造業」も同様です。

これらの市は、トヨタやスズキ、シャープなど特定企業の「企業城下町」の性格が強いと言って良く、生産力の規模が大きい一方で産業構造上の脆さも秘めているかもしれません。できれば別の機会に、製造業の「業種」に注目した観察もしてみたいと思います。

「人口あたり製造品出荷額等」上位の「市」の製造品出荷額等の業種構成



資料：令和4年「経済構造実態調査」